

常磐文藝

月に輝きとして

平町 星影生

(一)

若しもわが手にマンドリ
ヌがあるならば私は
今を限り鳴らさうものを
……われはヴェニスに若
い貴族ゴンドラの黄金の舳
に月受けて、戀入よ、わが
心を聴きたまへと、奏する
曲はヤレナアド……あゝも
そんな夢幻はよせ、時代は
移り世も變つたけれど變ら
ぬたゞ一つは月と我との心
の通ひ、昔の人もまた後の
世の萬人も

月は美しその肌を溶いて
静かに流すよう、空気が甘
くやはらかに、舟夫が手に
權のまはりて群かゝる夜光
虫をさる光の響かな

いづこと知れぬ音楽が流
れて来てわれを包むやう、
我れは船乗流浪の身、明日
はまた船出して、波分け知
らぬ國へと旅立ち行かう海
よお前は戀入だ、月よた前
はわが母だわが生命は港々
に新しく匂ひも響きも清く
積まれて、船はのせて行く
『生』と『死』との境なるわれ
よるこびを……われは
いつ死なうとも知られぬ身
故、月よ海よ宵をせめて
わが心を溢るゝ愛に抱きた
まへ……ごしりと舟は岸
壁へ着いた、ひらりと上る
若人の我等、ニイよわが友
よ、さらば……靴音ひいて
歩みつゝわれ思ふ
夢の國は高い高、空にあ
るのか知ら、でも降つてく
るこの光は……(完)……

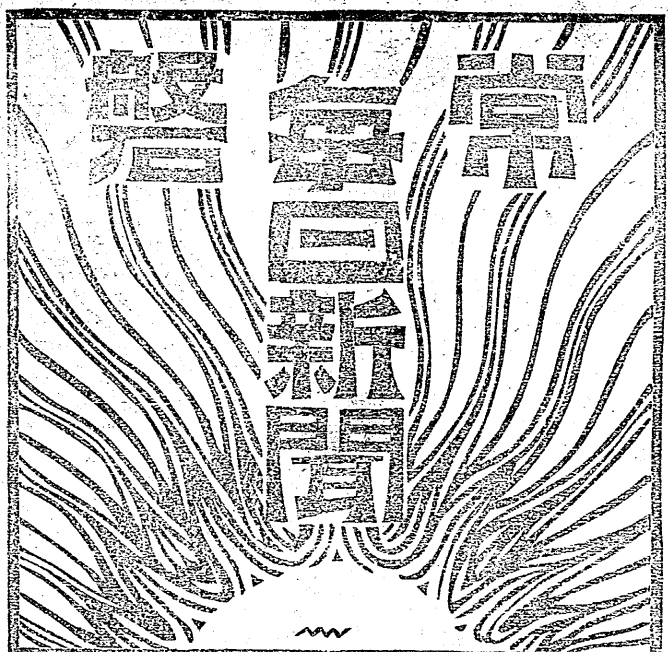
定 價 一 部 金 貳 錢
月 報 二 限 リ 一 ケ 月 卅 錢

廣 告 料 五 號 十 三 字 誌
一 行 卅 錢

休 刊 日、日 曜、大 祭
祝、ノ 翌 日
編 輯 人
印 刷 人

川 崎 文 治

福 島 縣 石 城 郡 平 町
字 長 橋 町 卅 五 番 地
常 磐 毎 日 新 聞 社



十一月三日夕刊

竹馬の友川崎君の日刊
紙發行を祝し前途に幸
多かれと祈る

炭屋旅館

關内喜久次郎

平町紺屋町
電話一三八番

祝 發 刊

松本徳一

石城郡平窪村

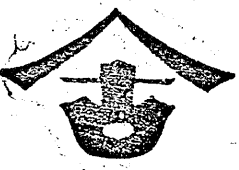
謹 告

今回常磐毎日新聞社經營の爲めいは
らき新聞社平支局を退きました同
社在勤中一方ならぬ御配慮を辱ふし
ました大方諸彦に對し厚く御禮申上
ます、今後は微力を以て此難事業に
身を處し粉骨碎身諸彦の御愛顧に報
ゆべき覺悟で御座いますから何卒倍
舊の御援助を賜り度く懇願致します
、右は拜趨御挨拶申上へべきの處創
業早々の事にて繁忙裡に没頭して居
りますから略儀ながら紙上を以つて
謹告致します

小鳥 川崎文治

祝 發 刊

最上



釀 造 元

鹽 屋 本 店

山 崎 與 三 郎 商 店

福 島 縣 平 町 電 話 二 七 番

醬 油



門 出 祝 詞 (二)
社 長 川 崎 文 治
而し私は今になつて考へ
て見ると飽迄も一社一人主
義を標榜して立つた事が非
常な幸ひであつたと喜んで
居ります。何故とすれば經
費倒れの惶れがなく無理を
せずとも社の經濟はどうや
ら繰り廻しがついて行くか
らであります、此點は「常
磐毎日新聞」の誇りとすべ
き強味であらねばならぬ。
始め私は此計劃を立て、
先づ眞先に相談を掛けた
のはいはらき新聞の宮田支
局長でありました、私はい

はらき新聞の祿を食む事七
ヶ年、其間宮田氏と同じ釜
の飯をツツキ合ふ事六ヶ年
に及んで居ります、即ち宮
田氏は最も私の接近した先
輩であつて新聞記者として
の私の總べてを知悉して居
る第一人者であります。
それ故に自分の計劃其も
のが果して世に容れらるべ
く充分なる可能性を有する
や否や並びに自分の力量が
難事業を遂行すべく餘りあ
るものであるか否か、自
分として充分に遣つての
け得る確信を有すと雖も夫
れが單純なる自惚に過ぎず
幻滅の悲哀を感じるが如き

大難關に逢着して醜態を暴
露する惶れはないかと、夫
れを憂慮した爲めでありま
した、然るに私から一伍一
什の話を聞き取つた宮田氏
は「夫れが爲めに君の退社
する事は惜むに耐へないが
君なるが故に爲し得る事業
であるを信すればこそ此場
合伸びんとする君の前途を
塞ぎ度くない」との故を以
つて總べてを肯定し、私の
日刊紙發行の段取りは殆ど
を出すしてスラ／＼と解決
を見るに至り茲に紙上を以
つて諸彦に謁わるの光榮を
得たのである。

(續)

時局に關し

教育上有益な宣言を

教育代議員會の協議

石城郡議事堂に於て

本縣東部聯合教育會代議員會は三日午前十時から石城郡議事堂に開會佐瀬郡長會長席に着き左記各項を附議した

建議題

- 一、縣立中等學校生徒中の貧困にして學術操行優良者に授業料を免除せられん事を本縣知事へ建議する事(双葉郡提出)
- 一、教員養成機關を擴張せられん事を本縣知事へ建議すること(相馬郡提出)

協議題

- 一、東部聯合教育會を解散すること(石城郡提出)
- 一、時局に關し教育上有益な宣言をなすの件(石城郡提出)

打合せ事項

- 一、中等學校教員部會へ入會の状況如何(相馬郡提出)

事務分擔

明日平第一に

明日午前九時半より平第一小學校に開會するべき本縣東部聯合教育會の事務分擔は左の如くである

(來賓)伊坂正、伏見彦衛、大越寅市、遠藤清

常磐片々

天高く馬肥ゆるの今日、警女の陸上運動會

どの生徒を見ても髪をヒキツメに結つて握り飯の結びツ玉をチョコナンと乗せて居る

震災の罹災民ぢやあるまいし少しは女子特有の美を擁護して貰ひ度い

是れでは嫁に行く時髪をクセ直しに一苦心を要するであらう

付係一中野盛治、矢吹英雄、大須賀百世、渡邊武橋本元吉、遠藤寅次、平塚むつ(會場係)會我直治、矢野弘平、宮寛太郎、佐川久吉、橋本喜高、引地淳四郎、渡邊善吉、水野海、(會計係)根本益利、上野忠雄

中根町長就任 石城郡植田町長中根善作氏の就任は昨日附知事より認可

故縁川小頭の殉職迄を劇化し

松竹キネマのヒルムに納むべく
本日同社技師來平

先般品川白煉瓦工場火災の際殉職して悲壯なる最後を遂げた中消防組小頭縁川伯氏の行動は全國消防組員の模範とすべき美談であるとして松竹キネマにては殉職する迄の一代記を劇に仕組

秋刀魚意外の大漁

一日間に七十五萬を漁獲す

本縣水産試験場所有船は一日午前六時秋刀魚三萬尾を漁獲して小名濱に歸港したが同日は四倉濱にて七萬千尾(價格千五百六十二圓)豊間濱六萬三千尾(同千六百二十二圓)江名濱卅萬尾(同六千圓)中の作十六萬五千九百九十尾(同二千八百四十四圓)小名濱十一萬五千尾(同二千五百四十圓)の大

水害豫防協議

平町外内郷、飯野二ヶ村惡水豫防組合にては五日午前九時より平町役場内に於て大正十二年度追加豫算の件を附議する由

綠川氏へ寄贈 故縁川殉職小頭の弔慰金として安達北郡消防協會より平署に金一封送付し來る

豪雨降り注ぐ

昨夜八時十分頃豪雨中に拘ら石城郡平窪村大字上中窪字眞似井大須賀藤次郎方より發火し見る見る火は家々包んで一月を過ぎぬに歸し午後九時頃鎮火したが損害一千圓位原因不明

氷代を横領し

昨夜八時十分頃豪雨中に拘ら石城郡平窪村大字上中窪字眞似井大須賀藤次郎方より發火し見る見る火は家々包んで一月を過ぎぬに歸し午後九時頃鎮火したが損害一千圓位原因不明

女を連れて逃ぐ

平町字久保町生れ住所不明徳田貞一(二三)は石城郡好間村大字北好間字籬秋山貞二方の水配達に従事本年七月から數回に亘つて集金した氷代金廿三圓三六錢を横領し同八月十六日夜同村字町出旅人宿志賀ハル方の雇女東京府生れ小野田ステ(七七)を連れ出し何れへか逃走行衛を晦した爲め平署にて捜索中である

情婦の許に 忍んで窃盗 其他各所から

雇婦四名を石城郡湯本町に誘拐し夫々飲食店に多額の金にて賣り飛ばした營利誘拐事件は昨日福島地方裁判所平支部にて懲役三年言渡さる

朝鮮入營壯丁 平町より來年一月十、歩兵の七十八聯隊(朝鮮龍山)に入營すべく引丁は結屋高木傳新川高秋字喜知、久保町甲高榮一の三氏である由

平裁判だより

賣飛ばす 當時東京府南葛飾郡寺島町字玉の井居住岡山縣生れ安東金一(三〇)が自分の營む酒屋の

際夫の不在中を奇貨とし箆筒の上になつた高貴織堅綿男羽織一枚(代金廿圓)を盗んだ外同年十二月には同村字小館瀧川藤兵衛方から黒ラシヤマント其他數點を奪取し本年一月には同村字三反田根本丑之助方から又去る九月には同村齋藤吉之助方から夫々衣類其他十數點を盗み平署にて柴田警部補取調の上昨日検事局に送

白痴の女兒

平署にて保護

二日午後八時頃豪雨中平町前住吉屋支店前を徘徊して居た年頃十三歳位な女兒を増子巡查が認め聞き訊したけれ共白痴であつて一切不明であるが郡山驛より平署迄の切符を持つて居た由で平署に保護を加へて居る

品名	單位	價格
白米	一斗	三六〇〇
白米	一斗	三五〇〇
白米	一斗	三三〇〇
白米	一斗	三二〇〇
白米	一斗	三一〇〇
白米	一斗	三〇〇〇
白米	一斗	二九〇〇
白米	一斗	二八〇〇
白米	一斗	二七〇〇
白米	一斗	二六〇〇
白米	一斗	二五〇〇
白米	一斗	二四〇〇
白米	一斗	二三〇〇
白米	一斗	二二〇〇
白米	一斗	二一〇〇
白米	一斗	二〇〇〇
白米	一斗	一九〇〇
白米	一斗	一八〇〇
白米	一斗	一七〇〇
白米	一斗	一六〇〇
白米	一斗	一五〇〇
白米	一斗	一四〇〇
白米	一斗	一三〇〇
白米	一斗	一二〇〇
白米	一斗	一一〇〇
白米	一斗	一〇〇〇
白米	一斗	九〇〇
白米	一斗	八〇〇
白米	一斗	七〇〇
白米	一斗	六〇〇
白米	一斗	五〇〇
白米	一斗	四〇〇
白米	一斗	三〇〇
白米	一斗	二〇〇
白米	一斗	一〇〇
白米	一斗	〇

夫成神仁藏(三三)同坑夫三瓶與作(二二)の兩名共謀し

募集 文藝其他一般投稿を歓迎します

本年四月十七日午後一時頃淺見川炭坑通風坑を焼かんと古藪等を燃料として放火した放火事件は來る十六日午前九時より福島地方裁判所平支部にて第一回公判開廷の筈

平町人事

出生

△南町 青木秀次五女律子

△立町 一條義正(二二)

△立町 佐藤德三郎(五九)

△二丁目 關内市重(四八)

明日休刊

馬治(五四)は本年九月十九日自分で垂糸を修繕した秤を使用して梨を賣り捌き度量衡違反として略式にて罰金十圓に

△坑口放火公判 同郡廣野村大字上淺見川高倉炭礦坑